

2026 年 7 月吉日

Maculus ご利用ユーザー様各位

NEC マグナスコミュニケーションズ株式会社
スマートネットワーク事業部

絶縁監視システム＜Maculus＞ 機能改良のお知らせ

拝啓 平素より、絶縁監視システム＜Maculus＞をご利用いただき、誠にありがとうございます。
このたび、Maculus の利便性向上を目的として、WEB システム＜Maculus＞から遠隔で絶縁監視装置の設定
を変更できる機能を追加いたしますので、下記のとおりお知らせいたします。

敬具

記

1. 機能改良の内容

WEB システム＜Maculus＞上から遠隔で、絶縁監視装置（型式：SMZ-9054-B）の設定を変更できるようになります。
遠隔設定変更が可能になる設定項目は、これまで PC 用ソフト「設定ツール」を使って設定していた次の項目です。これ
により設定ツールのインストールは不要となります。

注意警報閾値	注意警報検出時間	警戒警報検出時間	入力接点検出時間
警戒警報閾値	注意警報復帰時間	警戒警報復帰時間	入力接点復帰時間

2. 改良機能のご利用開始について

WEB システム	2026 年 7 月 30 日 18 時より WEB アプリケーションを更新します。更新時にセッションが一時的に切断される可能性がありますので、その際は再度ログインをお願いいたします。警報通知メールの送信等に影響はありません。 メンテナンス中に不測の事態が発生し、想定以上の時間がかかる場合は、改めて当社サイト等にて状況をご報告いたします。
絶縁監視装置	2026 年 7 月 31 日～8 月 6 日の期間、順次弊社より本機能に対応した新ソフトウェアを装置へ配信し、自動でバージョンアップを行います。 最新ソフトウェアへのバージョンアップには、装置の電源が入っており、かつ LTE に接続していることが必要です。次頁「監視装置ソフトウェアバージョンアップ時の注意事項」を確認いただき、お手数ですが在庫品につきましてもご対応をお願いいたします。

- ※ 装置のバージョンアップ時は、一時的に監視機能が停止し、インストール完了後に自動で再起動します。所要時間の目安は約 15～30 分です。再起動後は自動で元の監視状態に戻ります。詳細は次頁「監視装置ソフトウェアバージョンアップ時の注意事項」をご確認ください。
- ※ 装置のバージョンアップは、『Maculus 契約申込書』にてご指定いただいた「ファームウェア更新禁止時間帯」を避けた時間帯に実施いたします。

3. 改良機能の使い方

遠隔設定変更機能の操作方法につきましては、「遠隔設定変更簡易マニュアル」をご参照ください。

4. 本件に関するお問い合わせ先

各営業担当者または窓口メール zetsukan-sales@ml.magnus.nec.co.jp 宛にお問い合わせ願います。

今後とも、絶縁監視システム＜Maculus＞をご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

以上

監視装置ソフトウェアバージョンアップ時の注意事項

監視装置の遠隔ソフトウェア更新にあたっては、以下の点をあらかじめご承知おきくださいますようお願いいたします。

1. ソフトウェアバージョンアップのための装置の準備について（お願い）

① 運用中の装置（電源が入り、LTE アンテナを接続されている状態）

→追加で対応いただく作業はありません。

② お客様在庫品

→お手数ですが7/31～8/6の最新ソフトウェア配信期間中、
在庫品に対し以下のご対応をお願いします

1)装置にLTEアンテナを接続してください

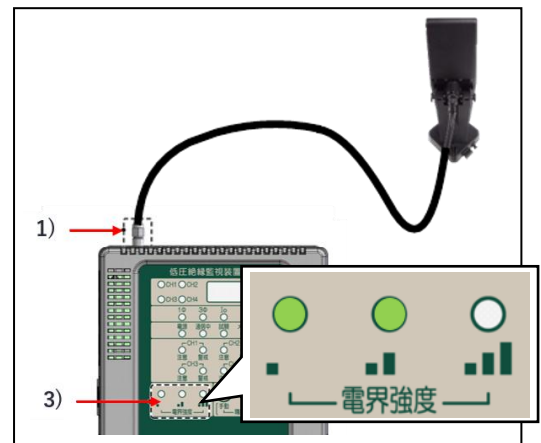
2)装置の電源コードを接続し電源スイッチをONにしてください

3)装置起動後約2分で電界強度が点灯します。電界強度ランプの点灯状況を確認してください

※ 電界強度が表示されず、電源ランプが赤点灯の場合は圏外です
電波環境を見直してください

4)最新ソフトウェアを受信できるよう、期間中はそのままの状態にしてください

※CTの取付、位相の設定は不要です



2. ソフトウェア更新中の警報監視停止について

ソフトウェア更新中は警報監視が停止します。警報発生中であっても、ソフトウェア更新処理が優先して実施されます。また、各種試験機能も同様に停止するため、装置のスイッチを押下しても反応しません。

3. ソフトウェア更新完了時の装置再起動について

ソフトウェア更新完了時には、装置の再起動が自動で行われます。装置再起動に伴い、通常の装置起動時と同様に「装置停電 復帰」および「定時通報」が発報されます。

- 装置の1分値データがクリアされるため、未取得分のトレンドグラフに欠損が生じる場合がございます（最長で直近3日間分）。
- 警報監視は再起動後にリスタートします。更新前に警報が発生していた場合でも復帰警報は発報されず、再度警報発生として扱われます。
- 更新前に警報検出していたものの、何らかの理由でサーバへの発報に失敗していた場合、装置で保持しているリトライ中の警報データは、装置再起動時にクリアされます。
- 装置再起動中はPing応答ができないため、Pingによる死活監視では異常として検出されます。

4. ソフトウェア更新にかかる時間について

更新時間の目安は15～30分です。ただし、通信状況により30分以上かかる場合があります。

以上